

平成20年第2回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成20年2月12日(火)

午後1時30分開会

開催日時	平成20年2月12日	開会 閉会	1時30分 2時55分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室			
出席委員	委員 長 委員長職務 代理者 委 員	伊東 浄堯 亘理千鶴子 菊地 邦夫	委 員 教 育 長	伊藤 恒子 向井 一身
欠席委員				
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 生涯学習部長 庶務課長 学務課長 指導室長 指導主事 指導主事	本多 龍雄 石川 明 北村 高 福田 協司 富士道正尋 浜田 真二 風見 由起夫	生涯学習課長 兼生涯学習係長事務取扱 スポーツ振興課長 図書館長 公民館長 庶務課長補佐 兼庶務係長	伊藤 信之 林 文男 田中 肇 中嶋 登 淀川 章
調 製	主 任 山内 和子			
傍聴者 人 数	2名			

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	議 案 第 2 号	小金井市教育委員会の基本方針及び平成 2 0 年度教育施策について
第 3	報 告 事 項	1 小金井市教育委員会児童・生徒表彰等について 2 小金井市立小・中学校連合作品展について 3 第 1 3 回東京国際スリーデーマーチについて 4 第 4 回野川駅伝大会について 5 神奈川県相模原市立星が丘公民館の視察研修について 6 その他 7 今後の日程について

開会 午後1時30分

伊東委員長 ただいまから、平成20年第2回小金井市教育委員会定例会を開会する。

日程第1、会議録署名委員の指名。本日の会議録署名委員は、互理職務代理者と菊地委員に願います。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

伊東委員長 日程第2、議案第2号、小金井市教育委員会の基本方針及び平成20年度教育施策についてを議題とする。

提案理由につき、説明をお願いします。

向井教育長 1月24日開催の教育委員会臨時会において、小金井市教育委員会教育目標が決定されたことに伴い、教育目標達成のための具体的な施策を展開するために、また、教育委員会実施の各事業の目的及び方向性を明確にするために、小金井市教育委員会の基本方針及び平成20年度教育施策の策定について提案するものである。

細部については担当から説明する。よろしくご審議の上、ご議決賜るようお願いする。

富士道 小金井市教育委員会の基本方針及び平成20年度の教育施策について、ご説明を申し上げます。
指導室長

なお、基本方針の1、2、3については、学校教育中心になるので、私のほうからご説明を申し上げます。また、基本方針4については、生涯学習、文化・スポーツの内容であるので、生涯学習課長から説明をさせていただきたいと思う。

まず、基本方針であるが、大きく4つの方針で成り立っている。これは、先回の臨時会で決定をされた教育目標について、その実現のために掲げられた大きな方針である。

まず、基本方針1であるが、人権尊重の精神と社会貢献の精神の育成ということである。これについては大きく、(1)人権教育の推進、(2)思いやりや社会貢献の精神の育成という柱で成っている。

(1)については、これまでもやっている人権教育の推進をさら

に進めてまいりたい、その内容が加味してある。なお、⑤については、小金井市の場合には男女平等基本条例がある。それについての男女平等教育を推進するというのは、1つ項目を挙げさせていただいた。なお、④にはいじめ問題解決ということで、これについては早期発見・早期対応等を入れてある。

それから、大きな2つ目、思いやり、また社会貢献の精神の育成ということであるが、これについては5点書いてある。内容についてはこのとおりである。今回、目標の中にも思いやり、また社会への貢献というような内容があったので、ここに掲げさせていただいた。

次に、基本方針2であるが、目標の中にあつた個性と創造力の伸張ということを勘案して、これを2つ目に挙げさせていただいた。

1つは、個性と創造力をはぐくむということのための教育を推進するというので、大きな項目がある。ここには9つあるが、例えば③には、今回、教育基本法等で明確にされた郷土に対する愛着、誇りを入れるということで、こういう文言を入れてある。また、小金井市の特色にもなろうかと思うが、⑥には地域の大学、または研究機関等との連携を図った理科・科学教育を推進するというものを明確に出させていただいた。

なお、個性という部分でいくと、(2)には特別支援教育の推進を挙げてある。①には、特に今、特別支援教育の中で重要視されているが、学習障害、注意欠陥多動性障害等、こういうような子どもたちへの教育をどうしていくのかということ、ここに明記した。また、②には、交流教育についてこれまでは思いやりというような言葉でまとめていたが、ともに助け合い、支え合うというような考え方というものを全面的に出すということで、ここに載せてある。

基本方針3であるが、これらの教育を推進していくためには信頼される学校づくり、さらに総合的な教育の充実が必要だということで、3つ目の柱を立てさせていただいた。

この中には大きく3つの項目があり、一つは総合的な教育の推進ということである。特に、①には読書活動を推進ということ、これを明記した。これは新しく学習指導要領等、これから出てくるが、その中にも大きな改善点として、いわゆる読解力がうたわれている。そのためにも読書活動推進というものを挙げさせていただいた。

(2)には、健康・安全教育の充実ということで6項目ある。特

に、さまざまな環境の整備ということを含め、⑥には校庭等の緑化、いわゆる芝生化の事業を予定しており、そういうようなものを支えるという意味でここに出させていただいた。

なお、(3)には信頼される学校づくりということで、地域、保護者との連携を図った学校の活動の推進及び情報提供していくというようなことを含めて、3項目に分けて入れている。

なお、前後したが、基本方針のつくりであるが、四角の中であるが、これは前半の部分においては、今、こういうようなことが背景として要請されているというような客観的な要請の内容が書いてある。つまり、今、これが求められているというようなことであってある。それに対して、教育委員会としてはどうするというようなことが、この後半部分というようなつくりとなっている。

学校関係は以上である。

伊藤生涯
学習課長

続いて、基本方針4の部分である。生涯学習部関係についてご説明する。

全体の構成としては、基本方針、囲みの部分で大きな目標を述べてある。

次に、各課の施策として、(1)生涯学習の推進、(2)青少年教育の推進、(3)スポーツ・レクリエーション活動の推進、(4)文化財の保護と啓発活動の推進、(5)公民館活動の充実、(6)図書館活動の充実、(7)社会教育施設の整備と、7つの柱を立てさせていただいている。

詳細になるが、最初に基本の部分であるが、生涯学習の理念である、いつでも、どこでも、だれもが生涯を通じて、みずから学習し、社会参加することで、生き生きと地域で暮らしていけるよう支援をしていくことを目標としている。

7つの柱であるが、まず(1)生涯学習の推進であるが、これは基本方針と重複する部分もあるが、ソフト面でのまちづくりということの一つ重要な柱として意識しており、文化・スポーツを通じて、市民の交流や、家庭教育、地域の連携、大学やNPO等の市民団体との連携を促進することを目標にして、これらを通して地域づくりをしていくということが書かれている。

(2)青少年教育の推進であるが、学校教育と密接に連携する部分がある、地域で子どもたちを育てていく、あるいは家庭教育を充

実していくということで、3つの項目を挙げさせていただいている。1番目に、家庭教育を推進するための情報提供、これは都や国、文科省との連携をしながら進めていく事業である。2番目に、放課後子ども教室は今年度から取り組んでいるが、こういった事業を通じてよりよいコミュニティーをつくっていこうということである。3番目に、野外活動が中心になるが、清里山荘の指定管理者と連携をして、清里の豊かな自然と触れ合うことで感受性豊かな子どもを育てていこうということである。

(3) であるが、スポーツ・レクリエーションは主にスポーツ振興課が担っていく部分になる、幼児期から高齢期まで、生涯を通じてさまざまなスポーツやレクリエーションに親しむことで、人の輪を広げていく、あるいはみずからの健康増進に役立てていくということ、さまざまなスポーツ団体の活動を支援していくということで、4つの柱を掲げてある。

(4) であるが、文化財の保護と啓発活動である。地域の文化や伝統を後世に継承していく大きな事業である。こういったことを通じて市民が文化財に親しむことができるように、文化財関係のサークルの活動を支援していくのが通年の活動になっている。また、来年度は市制50周年の記念事業の一環として、市史の編さんや写真集の刊行など、さまざまなことを実施する予定である。

(5) 公民館活動の充実である。生涯学習の実践の最前線なので、多様なテーマで各年代に向けて多くの人が参加できるような講座を設けていくということの中で、6項目掲げている。

(6) 図書館活動の充実である。限られた資源の中ではあるが、市民のニーズにこたえるためにさまざまな活動をしていくということである。特に、子どもの読書活動推進のために、読書環境を整えるといったようなことが3番目の柱として掲げている。

最後になるが、社会教育施設の整備について、活動の拠点となる施設の充実を図っていくため、3つの柱を掲げている。特に③であるが、新たな施設を次々つくるといった環境にはないので、公民館、図書館、体育館、学校などの既存施設を有効に活用して、積極的に施策を推進していきたいと考えている。

以上である。

伊東委員長 ありがとうございます。
 ただいまご説明をいただいた。ご意見、またご感想など、お願い
 したいと思う。

菊地委員 これは市の方針であるから、一般市民全体に理解していただく方
 針として考えていいのか。要するに、学校だけの問題ではないとい
 うこと、教育委員会としてこういうことをやるということの方針と
 して考えていいのか。

伊東委員長 市民全体にこういうことを知っていただくということなのかとい
 うことである。

伊藤生涯
学習課長 はい。

菊地委員 少し堅苦し過ぎないかなと思うが、言ってしまえば、結局、全部
 当たり前ということにもなってしまうし、もう少し具体的に小金井
 は何かということがあってもいいのではと感じ、全部そろってい
 るなという感じはするが、何か光ったものがないかなという感じが
 する。生涯教育のほうに関しては割と具体的なものが入っているの
 で、まだこちらのほうは少し、図書館を建てたいという意向も入っ
 ているような感じがするので、そういうのはいいんだろうと思うが、
 教育のほうはどこが変わるのかなというあたりが見えてこないよ
 うな気がする。

伊東委員長 ありがとうございます。
 ほかに。

伊藤委員 関連であるが、菊地委員も言ったように、全体的に本当に落ちな
 く、網羅されている内容であるということは、本当にご苦労いただ
 いたんだなというふうに思うが、市民に開いていくという形にした
 ときに、この教育目標が大変やさしく、よい言葉でまとまっている
 ので、それに倣って、基本方針もわかりやすくなることが大事な
 のではないかと感じた。

 それから、学校にかかわる1から3の部分については、どちらか

というと、理念的な形で文章が構成されている。社会教育のほうは、いわゆる施策、具体的な形で書かれているということで、ちょっとそこに違いを感じる。その辺を、具体的にいくならば、学校教育も読んだときにわかるような形、内容が浮かび上がってくるような形の文章のほうに。そうでないなら、社会教育のほうも具体的なものは別枠に書くというような形でやっていったほうが良いと全体として思った。

できれば、重なり合っているような内容が、どれも大事であるが、一つにまとめて、より簡潔にしたほうが、言葉としての重みがつく。そういう意味では、条項を減らしていくということも必要かというふうに思った。

以上である。

伊東委員長

ありがとう。

亘理委員は何かあるか。

亘理委員長
職務代理者

私は昨年度や一昨年度の重点と学校教育の重点、社会教育の重点ということを照らし合わせてみたが、まず、基本方針3で、昨年までは生きる力をはぐくむ教育の推進というところが、総合的な教育という言葉に変わっている。その総合的な教育を読むと、学校教育の中の総合的な時間のことを言っているのかなというような感じも持つし、こここのところをもう一度説明していただきたいと思う。

もう一つは、生涯学習のほうであるが、ほとんどすべて去年と同じであるが、図書館だけが変わっている。図書館の変えたところをちょっと説明いただきたいと思う。

富士道
指導室長

今、ご質問をいただいた基本方針3、信頼される学校づくりと総合的な教育の充実というようなところであるが、総合的な教育という言葉であるが、これはあくまでも、いわゆる教育課程の中にある総合的な学習の時間に限定をしたということではなく、まさしく広く、総合的な教育というようなことでとらえている。したがって、時間割の中のある特定の時間を指定したということではないので、ご理解いただきたいと思う。

田中図書館長

図書館の充実のところであるが、もっと具体的にということか。

伊東委員長 はい。

田中図書館長 ①については、多様化、高度化するには、いわゆるインターネット環境とか、そういったものを現在、図書館のほうは完備していないので、そういったものを含んでニーズにおこたえしたいなということ。保存については、本が溢れている状況があるので、それについて一定の工夫をしていきたいなということである。

②については、現在、開館時間を早める、あるいは閉館時間を遅めるというふうな要望があるので、そういったニーズにこたえていきたいということである。

③については、今現在、子ども読書活動推進計画の第1期計画をやっているが、これが20年度で切れるので、21年度に新しい計画を策定していくということである。

④についてはこの字のとおりである。
以上である。

亙理委員長 ありがとう。
職務代理者

伊東委員長 今の亙理職務代理者のことは今の説明でよろしいか。

亙理委員長 はい、わかった。
職務代理者

伊東委員長 私のほうからよろしいか。

先ほど亙理委員の言われた総合的な教育という言葉であるが、今、授業の総合的というのとどうしてもダブってしまうのではないか、オーバーラップしてしまうのではないかという感じはぬぐえないような感じがするので、ちょっとご検討いただいたほうがいいのかなという感じはする。

図書館長のほうも、多様化、高度化する市民要望にこたえるためと、市民要望にこたえた図書館運営に当たるというのは、これもやはりちょっとオーバーラップしていくような、説明していただければ、なるほどであるが、ちょっと言葉を変えることでもう少しわか

りやすくなるのかなという感じはするが、いかがか。

田中図書館長 わかった。

伊藤委員 基本方針3の信頼される学校づくりと総合的な教育の充実という柱そのものは、結局、学び合い、支え合い、高め合う、全体でやっていくんだというこの教育目標に書かれている内容を踏まえてのことだと受け取った。つまり、信頼される学校をつくっていくんだが、学校そのものは学校だけではできないという内容を踏まえて、この中に地域の力を借りたり、学校の教育力を高めたりというような内容が書かれていると思うが、表現の仕方なのか、常に学校からの視点で文章が書かれているような気がして、もうちょっと全体で学校教育を支え合っていくことそのものが、社会全体の教育力アップになるというような、学校中心の文章ではなくてよい。

それから、ここで基本方針4として生涯学習が別仕立てになっていることに私はちょっと疑問を持っている。というのは、基本方針3のところを、地域全体で教育委員会として学校教育も含めた生涯教育を支えていくというような形にすると、具体的な例は別として、一緒に立てていけることなのではないかと思う。それに、総合的な教育の推進というところに書かれていることは、基本方針2の個性や創造力を養っていくための方法論であるので、そのことが基本方針2に入ってしまう内容なのではないかと思っている。こちらでは個性を伸ばすための学習について、また特別支援教育に書かれているが、それを支えるために、広い意味で個性と創造力を養うためには、ここで書かれている総合的な教育が入っていくのではないかという考えである。そうすると、総合的な教育という言葉を使わなくても、基本方針2の中に含めてしまうことができると思う。あえて別仕立てにする必要があるのかという思いである。説明が悪くて、ご理解いただけなかったら申しわけない。

富士道 ちよつと補足説明をさせていただきたいと思う。

指導室長 基本方針1、2というのは、まさしく教育目標の中の、いわゆる期待される人間像というか、私どもが理想として描く人の像というもの言葉を完成させるために、こういうようなことの力をつけていくんだというのが大きく1、2に書いてある。学校教育の中で具

体的にそれをさせるためにはどうするか。一つは、信頼される学校づくりをしていかなければいけない。そして、こういうような力を伸ばしていくためには、総合的に教育を進めていく必要がある。そのためにということでこの3がある。したがって、ここには総合的な教育の推進があったり、環境整備のための健康・安全教育があったり、そしてそのためには信頼される学校、そして教職員の力をつけていくというようなこと、こういうような下支えをするような項目ということでまとめている。

なお、今、ご指摘いただいた生涯学習との関係の中で、文言で多少の温度差というか、差があるというようなご指摘もいただいた。なかなかこれは私どもも難しいところかなと思っており、学校教育についてはこのものを受けて、各学校で具体的にどうするのかというのが、実は次の段階に入ってくる。したがって、教育委員会としての方針、方向性を出して、かつそれを、実行部隊というのが実際には学校現場になっているので、その辺が私どもとしてどこまで具体化として書き込めるか、逆に、これがあいまいさをとというようなご指摘にもなってしまうかと思うが、ここから先が実は今度、学校の教育課程の作成、学校長の経営方針というような中でのつながりになってくることであり、そこがどこまで具体的なことを出せるか、少し検討させていただきたいと思っている。

菊地委員 そうすると、ダブっているところがあるということだが、学校の現場に入ると、結局、それぞれにまた方針を出さなければいけないということになると、かなり労力的にも大変ではないかなと思う。そうでなくても学校の現場は今、忙しくて大変だということだし、なるべくそういうものに、まとまるものはまとめて、やる項目を減らしていただいたほうが良いような気がするが、どうか。

伊東委員長 そういうご意見も……。

菊地委員 たくさんつくると、その他にもまた別につくらなくてはいけなくなるから、例えば大学と何とかやるとか、そういう学習をやるとかということ、どちらか一つにまとめて、片方を入れないようにすれば、そっちだけで済んでしまうというようなことが起こるのではないかと思うので、現場を少しでも軽減させてあげる必要があるの

ではないかなと思うが、いかがか。

富士道
指導室長

ご指摘のとおりの部分はあるかと思うが、私どもとしては、先ほど委員からのご指摘にあった、すべて網羅というつもりはないが、なるべく広く、さまざまところでこうあったらいいなということで方向性を出させていただいたというのが本音である。これをすべて完璧にやり切るとするのは、本当に学校現場は大変な労力、時間もかかることは承知をしている。したがって、当然、さまざまところでこれをどう生かしていくのかということが重要になってくるかと思う。この文言整理を、もう少し簡潔に、少な目というようなご指摘もあった。ぜひまた検討をさせていただきたいと思う。

伊藤委員

基本方針3の(4)の②に書かれている教職員というのは、生涯学習にかかわる職員も入っているのか。

富士道
指導室長

今申し上げた、3までが学校教育にかかわるといようなことで重点を絞っているの、ここは特に学校にかかわる教職員、学校にいる教職員という限定で考えている。

伊藤委員

ということは、生涯学習のほうでの職員の研修のような部分はどこに書かれているのか。

伊藤生涯
学習課長

この中では、市民向けの活動ということを書いている。職員はさまざまな活動の中で市民と触れ合うことで、その見識は磨かれていくと考える。職員のスキルを高めるとか、モチベーションを高めるといったようなことは特段記載はしていない。

以上である。

向井教育長

それは教員と一般的な公務員との身分的な差にある。というのは、教員のほうには、研修を義務づけられているというか、法律上、研修しなければならない。そういう意味もあって、逆に言うと、教員の研修・研究は確実にやってほしいということが一方あるし、どちらかという、公務員のほうは効率アップの研修が中心である。それ以外は余り認められないというか、ないと言えないという視点もある。

それから、全体的なことに関して、これはあくまで主語が教育委員会である。主語が教育委員会で、教育委員会はこういう目標を掲げて、こういう施策を実施して、そのためにこの後ろに事業がズラッと入ってくる。学校は確かに教育課程にこういう内容を全部反映していくが、反映しているだけでは、学校自身の主体性で動く部分だろう。教育委員会としては、例えば国際理解教育を推進するためにこういう研修会を実施するし、また、特別支援教育を充実するためにこういう施策を、具体的な研修会を実施したり、人を置いたりしていく。先ほど、目線がどこがいいのだろうかというのがあったが、目線はあくまで教育委員会だと思う。学校に対して、こういう教育が展開できるようにこういう施策をやっていくというふうな姿勢は一貫しているのではないかなというふうに思う。そういう意味では、目線はすごく大事であるから、目線がずれるというか、目線が変わってしまうと、表現が全然変わってきてしまうので、その辺はそんな考えでいいのかなと私は思う。

伊東委員長

私のほうからよろしいか。

これをずっと拝見して、また東京都であるとか、その他各市のをインターネットで見て、小金井市のこれは大変よくできているなという感想がまず第一にした。ただ、その中で、これは小金井市のなんだよという、小金井市らしさというものがこの中にあるのだろうかという、ちょっとどうなのかなというような気がする。信頼される学校づくりの中に、校長のリーダーシップのもとに、学校の自主性・自律性を確立し、特色ある教育活動を推進する、とあるが、小金井市の特色ある教育活動は何なんだろうかということが、この中にどういうところに出ているのかなというのは、僕はちょっとそこまで比較し切れていないのかなとは思いますが、それをまず感じた。

あとは、大変いろいろなところが網羅されていて、私はすばらしいと思う。ただ、もう少し、例えば英語活動などは、将来的にわたってこういうふうにしていきたいというようなビジョンがあるのか、ないのか。より具体的なものが出てくると、将来どうなってくるんだろうかというようなことも感じたり、例えば特別支援教育のあたり、ちょっと細くなるが、「～を推進する」と最後になっているが、体制づくりの整備をしていったりとか、そういうような推進の仕方なのかなとか、もうちょっとその辺も具体的に書かれたほ

うがわかりやすいのかなと思った。幾つか細かいこともあるが、全体的に見ると、小金井らしさというものの、小金井市の教育というのはこれだよ、こういう教育を進めていくんだよと。それはまず、大都市圏のベッドタウンであるという状況もあるだろうし、多分遠くの地方と小金井市は違うだろうし、いろいろな条件の中で、小金井市の教育はこれからこういうふうにしていきたいんだというものがなければ、ほかの市のを見ても、そんなに変わらないではないかとなってしまうのではないかと思う。その辺をちょっと考えていただけるとありがたいと思っている。

それからもう一つ、基本方針4の生涯学習と文化・スポーツの振興であるが、その冒頭に、子供たちの健やかな成長を社会全体で支えるとともに、市民一人一人が生涯にわたって学び、社会に貢献できるようにすることが求められる、とあるが、生涯学習というのは子どもたちではなくて、11万市民全体だろう、それがまず第一に来ていいだろう、その中に子どもがあり、老若男女が入ってくるんだろうというような感じがする。もしかしたら生涯学習の中に学校教育も含まれてしまうのかなというとらえ方も、僕はできるのではないかと思うが、その辺の言葉がどうも、子供たちの健やかな成長を社会全体で支えるとともにというのがどうなのかな、ちょっと違うのではないかなという感じが私はした。

ちょっと幾つか思いつくことを話させていただいた。

向井教育長

皆様のご意見をいただきながら話すようなことが多くなって申し訳ないが、確かに大変網羅的だと思う。一つも落ちないようにしておかなくてはいけない。つまり、どれ一つをとっても、これは外していいよという項目は実はない。学校も何らかの形で必ず教育課程に組み込んでいくが、ただ、非常に大きく取り扱うものもあれば、比較的小さく取り扱う内容もあると思う。例えば、うちの学校は読書活動に非常に力を入れている。ほかのこともやっている。例えば、健康教育も性に関する指導もやっている。消費者教育もやっているし、環境についてもやっているが、特に読書活動に大きく力を入れてやっているというところがある。そうすると、その学校は、教育課程全体は非常に総花的だが、校長の経営方針の中でその辺が強く打ち出されてくるということがあると思う。

今つくっている教育目標及び施策というのは、確かに総花的に見

える。また、そういうふうを書いてあるものだと思う。ただ、これからどこに力を入れてやっていくかとなってきたときは、具体的な施策を見ていただき、例えば図書館司書を週2回置こう、週3回置こう、もしくは保護者のボランティアをたくさん入れて、力を入れよう、そういうふうに行ってくと、そこはどんどん重たく、大きくなっていくと思う。この状態と実際に展開したときのダイナミズムというのか、力の入れ方が若干変わってくるので、その辺、この方針の中だけで大きくできない、もしくはほかのところを消せないという事情があると思う。それは、例えば今度、教育委員会から学校のほうに、特にこういうところに力を入れて行ってほしいというような発信をしていかなければいけないと思う。これがこの文章のままだと非常に総花的であるが、例えば地域の大学の力とか地域の人材の力を使って、こういうところを特にやっっていこうというような発信はこれからしていくんだと思う。その前段階ではないかと思う。

伊藤生涯
学習課長

確かにおっしゃるとおり、生涯学習という意味では、11万市民が生涯を通じて学習をし、地域参加をし、地域の人と触れ合って、きちっと生活をしていくというのは、一般的にそのとおりだと考えている。ただ、小金井の場合、学校教育のことを私はそんなに詳しく知っているわけではないが、何人かの校長先生、副校長先生のお話を聞くと、地域で学校を支えてくれるとか、子どもたちにかかわってくれるということが、ほかの前任地から見ると、非常に新鮮に見えるといったようなお話も聞いている。そういったことも含めて、先ほども申したが、地域をつくっていくというのが生涯学習の中の一つの大きな柱であると考えている。いわゆるソフト面のまちづくりということだと思っている。その中で子供たちにかかわりながら、大人たちが連携をしていくことで地域をつくっていくというのが、一つの大きな柱であるという考えを持っており、そういった意味で、一番前に来ている。最終の行のところは、文化やスポーツに親しみ、社会に参加する機会の充実を図るということでまとめているが、これが本来であれば前に来るべきだという考え方もあろうかとは思いますが、ここはあえて、子どもたちの健やかな成長ということで、子どもたちにかかわること、子どもたちを媒介として地域をつくっていきたいという思いを出したつもりでいる。

以上である。

向井教育長 さっき言葉が足りなかったので、つけ加えるが、文章にすると、やっぱり残っていくので、こういう形にならざるを得ない。ただ、来年度は教育委員4人の方も一緒に、年度初めに、校長、副校長、管理職を前に平成20年度の施策の重点、特に力を入れてほしいところ、考えているようなことをきちんと話をし、伝えようと思う。そういうところでかなり明確になってくるのではないかな、小金井らしさをそういうところを出したいなと思っている。

伊東委員長 先ほどの生涯学習課長のご説明であるが、それもなるほどごもともであるが、やっぱりそれはちょっと違うのではないかな。やっぱり生涯学習は生涯学習で、11万市民という市民一人一人が主語になっていくべきではないかなというような感じがする。例えば、公民館活動にしてもそうだろうし、図書館にしてもそうだろうし、体育館のスポーツ振興課にしてもそうだろうし、それぞれが子ども中心ではない、やっぱり小金井市全体、11万市民が中心なんだろうという発想でいっていいのではないかなと僕は思う。

本多学校
教育部長 私のほうからも、さきの教育委員会と臨時会の中で、教育委員会の教育目標については教育基本法、学校教育法に基づいて、それに小金井らしさをつけ加えたものを教育委員会で決定していただいた。

今回の小金井市の教育委員会の基本方針及び教育施策の関係であるが、これについても東京都の教育委員会の基本方針を参考にせざるを得ないということがあり、また小金井らしさというところもつけ加えるということで、こちら事務局としては、小金井市の基本条例というものが2つ、男女平等基本条例、環境基本条例というものがあり、それらも施策の中に入れていこうということで、事務局で検討した。

(1)の人権教育の推進については⑤で、小金井市基本条例に基づきということで、小金井らしさを入れさせていただいた。

基本方針2のところでは、教育長も言われていたように、地域性ということで、大学とか研究機関というのがあるので、理科・科学教育を推進するというところを、小金井市の売りということでも入

れさせていただいている。また、特別支援教育は、今年度、充実するところがあるので、その辺も入れさせていただいた。

また、基本方針3のところ、環境の関係では(2)健康・安全教育の充実の⑥のところ、ゆとりと潤いのある教育環境づくりのためということで、校庭等の緑化などに努めるといった小金井らしさを加えさせていただいている。

そういった形で本日、提案させていただいた経過があるということをつけ加えさせていただく。

石川生涯
学習部長

基本方針4のところのご指摘をいただいた部分であるが、基本的に、すべての市民が生涯にわたって学んで、生き生きと地域で社会活動ができるよという考えは、そのとおりである。ただ、私どもとしては、あくまで子どもの視点を強く出したというところにちょっと違和感があるのかなということがあるので、検討させていただく話になるのかなというふうに思うが、基本的には、後段に述べているところが、家庭・学校・地域の教育力を高め、そして以下の部分につながるようになるという点で、ご指摘のとおりと思っているが、その辺のところの考え方については、子供たちというのが強く前に出たのかなと思っているが、子供に重きを置いたという点はご理解をいただきたいと思う。

伊東委員長

ほかに何かあるか。

菊地委員

内容的に非常にいいと思う。それは問題ないが、結局、私たちが一般に読むとすると、読んだことによって、どういうイメージの子どもとか、どういうイメージの市民が生活できるまちなのかなという、そういうイメージがわくような文章とか言葉遣い、比重の問題とかなんかあると思うが、そういう何か形が見えるような書き方にしてもらいたいと思う。難しいと思う。要するにNHKの漫画みたいなのもあるが、ああいうような格好で書けるようなものがあるといいかなと思う。全部書いてしまうと、何か平らで、何だかよくわからないという、普通の人間がただ立っただけというような感じになるような気がする。特徴が何かないかなということ。文章を読んだ人たちは多分そういうイメージをある程度は持ちたいと思って読むと思うが、いかがか。難しいと思う。

富士道
指導室長

少し補足させていただくが、今、菊地委員がおっしゃるような形、イメージがなかなか出てこないというようなご指摘は、全くそのとおりだと思う。また、これは余りイメージが出過ぎると、今度は学校に対しては非常に狭まった形での指示になってしまうということでの悩みがある。先ほど教育長からも話があったが、この後、この施策一つ一つにおいて、今、どんな事業があるか、つまり、具体的に予算をつけながら、どういう事業をやっているかという部分のものをつけた形で、実際には市民の方にお知らせするのが一番わかりやすいかなと思う。したがって、方針があって、それを受けて施策がある。その施策の中で、さらに具体的な事業が出てくる。これが出てくると、もっとイメージとしてはわかりやすくなるのかなと思う。ここには事業名が出ていない。したがって、なかなか、充実するとか努力するというのはどういうことなんだというのは、全くご指摘のとおりとは思いますが、具体的に幾つ、いつまでに、何をという話になると、もう少しこれは狭まった概念になるので、この辺が事務局の中でも非常に悩むところである。

伊東委員長

ほかに。

伊藤委員

私は、この基本方針4の、子供たちの健やかな成長を社会全体で支えるという言葉が大変気に入っている。このことがあるから、先ほど、3番のところと一緒に、学校教育と社会教育を分離しないで、文章として融合できないか、つまり、全体ですべての教育を支えていくというような文章にすることで、大人も子どももというようなことの発言なので、私としては今の、要請にこたえた斬新な言葉だと気に入っている。

伊東委員長

どうもありがとう。

今、小金井市の地域の教育力というのは、僕はすばらしいものがあると思う。例えば、基本方針1、2、3の中での地域住民の参画を求めというような言葉であったり、もっと連携する、対等な意味で連携していくというか、同じに子どもを育てていくんだよというような、同じ視点で子どもを育てていくんだ、学校が上とか、もちろん市民が下とか、そういう関係とは、そういう意味で書いている

のではないことはわかるが、もっと地域の教育力を、いろいろなところでいろいろなことをなさって子どもたちを育ててくださる人がいるし、その人たちも評価するような言葉が必要なのかな。それで、学校との連携であったりとか、もちろん公民館との連携であり、いろいろなところで連携して行って、子どもたちが育っていくということがこの中にもうちょっと入るといいのかなと、多分伊藤先生がおっしゃるのはそういうことで……。

伊藤委員

そうである。3番のところで言いたかったのは、委員長がとても上手にまとめてくださったが、結局、1番、2番は教育そのものを語られている。でも、この3番のところはもうちょっと広い、信頼される学校づくりということはその一つであって、信頼される学校づくりは学校だけではできなくて、みんなでやっているんだというようなニュアンスの基本方針が出てきて、その中の基盤として社会教育があっていくというような、そこが一体になったらよりいいような気持ちで申し上げた。それが、じゃ、いい言葉があるかと言われると困ってしまうが、この基本方針4に書かれている社会全体で支え合う、そのためには信頼される学校でなくてははいけないし、ここに書かれているような学校そのものにも頑張ってもらわなければいけないしというようなことになってくるんだろうというふうに思っている。分かれていることが、何か遊離しているような、「また」であったり、「そして」であったりするような気がして、一緒になったら、広い、それこそ小金井らしい特色のある方針なのではないかというような、ちょっと大それた考えを持った。

伊東委員長

せっかくすばらしいものをつくっていただいているが、私はまずこれを見て、人権教育とかそういうのは一番トップに持ってこなければならぬのか。どうも人権教育であり、次はまた個性の伸張であり、何かもうちょっと像が違うようなものを持ってきてもいいのではないかなというような、その中に人権教育も入るんだよというような、そういうようつくり方はできないものだろうか。評論家みたいなことを言うのは楽なんだが、このご苦勞とかを考えると申しわけないなと思う。

富士道

補足説明をさせていただく。

指導室長 順序性というご指摘を今いただいた。先回、臨時会で決めていただいた教育目標の中の、いわゆる目標とすべき人物像のまず最初に出てきていたのが、実は、自他の生命と人格を尊重し、礼儀正しく、思いやりのある人。これが実は第1番で出ている。この自他の生命と人格を尊重ということ自体が、実は人権尊重のまさしく精神の言葉である。さらに2つ目には、社会のルールを身につけ、社会貢献に努める人。したがって、社会貢献の精神というのが2つ目。そして、みずから生まれ、考え続ける個性と創造力豊かな人というのが、3つ目に出てきた。したがって、これが基本方針2の個性と創造力の伸張というような、この順序性に従ってまとめさせていただいたという背景がある。

亘理委員長
職務代理者 先ほど、部長が小金井らしさということでこの1の⑤小金井市男女平等基本条例に基づきという文言を入れられたというお話であったが、これは②という中にも女性というような言葉もあるし、あえてここに書かなければならない文章でもないのではないかと思うが、いかがか。

本多学校
教育部長 ここについては、小金井らしさということで、小金井市の基本条例というのは数少ないもので、これをちょっと明確に出して、小金井らしさをあえて出させていただいた。

亘理委員長
職務代理者 わかった。

伊東委員長 だからって、②の女性を削るわけにはいかない。これも女性を削るわけにはいかないし、これがやっぱりすごく重たい。

亘理委員長
職務代理者 そうである。

伊東委員長 すごくこれに力を入れているんだろうが、実際に学校教育の中でどうなんだろう。

伊藤委員 そう考えると、いじめ問題なんていうことを出すか、それは具体

的に、さっきおっしゃった施策のこちらのほうで、こういう教室をやって、カウンセラーを回しているよなんていうことにして、これは差別意識とか、1番の文章ですべて網羅できることなのではないか、そんなふうに、簡単にということは、施策のところ、小金井は女性、でなかったら、男女にあるというような形でやっていってもとということ。できるだけ短く、大事なことを余りたくさん散らしてしまうと、どれが大事かわからなくなるので、1個1個の言葉に重みを置いてという気持ちである。どれが大事ではないなんてことは、特に男女平等は大事だと思っている。

富士道
指導室長

ちょっと補足をさせていただく。

(1)の人権教育の推進の①というのは、まさしく概念論的で大枠の書き方をしてある。これをより具体的にまとめたものを②で挙げたということである。この②であるが、国、都でも、いわゆる人権課題としてその他の項目を入れると、10課題を指定している。順番でいくと、本来は女性、子ども、高齢者という順番である。これは理屈的には一番人数が多い順番と聞いている。私どもは、小金井市はまずは子どもということで、ここでは子どもを優先にして書いてある。本来は10課題あるが、それも全部挙げると長くなることもあって、大きいものを挙げている。そのうち、先ほど部長からお話があったが、⑤については、小金井市独自でこういう男女平等基本条例があり、その中に適正な男女平等教育を推進するということが、明確に記載がある。そのこととも整合性を合わせるために、あえてここではこういうものを挙げている。私どもとしては別にどれが重いとか軽いとかということではなく、すべてについて本来やらなければいけないとは思っているが、こういうような配置をさせていただいたということである。

伊東委員長

どうするか。皆さん、言いたいことをどんどん発言いただき、またお答えもいただいているが、幾つかまだ、理解できた部分とどうかなという部分とちょっと変えていただいたほうがいいかなという部分とがあるような気がする。

伊藤生涯
学習課長

先ほど委員長から指摘のあった部分であるが、市民全体の生涯学習をメインに持ってくるべきではないかということである。全くそ

のとおりで、それはそうであるが、その点については、教育目標というのは前回出されている。その中では生涯学習の理念ということで書かれているかなと思っている。この文章は、小金井市教育委員会の基本方針及び平成20年度の教育施策ということで、平成20年度でどこの部分に力を入れてやるかということがメインに書かれているのかなと理解している。したがって、11万市民の生涯学習を振興していくという基本にのっとり、20年度については、とりわけ子どもたちを全体で支えていくんだという方向性で考えていると理解していただければ、幸いである。

以上である。

本多学校 取り扱いについては、継続というご意見もあったので、次回の教育委員会でまた審議していただくということで、よろしく願います。

伊東委員長 委員の皆さん、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

伊東委員長 3月の教育委員会はいつか。

本多学校 27日。
教育部長

伊東委員長 27日の教育委員会でよろしいか。

本多学校 はい。
教育部長

伊東委員長 そういうことで、再度ご検討いただくということで、もうちょっと文章のほうを考えていただくということでひとつよろしく願います。

日程第3、報告事項に移る。

担当の方から説明をお願いします。

まず、報告事項1、小金井市教育委員会児童・生徒表彰等につい

て、願います。

風見指導主事 平成19年度小金井市教育委員会児童・生徒表彰についてご報告する。

児童・生徒表彰は、他の模範となるような成績、または行為のあった児童・生徒を表彰し、健全育成に役立てるとともに、学校教育の一層の充実、向上に資することを目的にしている。

報告事項1資料をごらんいただきたい。

各学校長より推薦していただき、審査会を経て、本年度児童・生徒表彰は28の個人及び団体の表彰が決定した。なお、表彰式は2月14日午後4時より、本会場にて行う予定である。

以上である。

伊東委員長 ありがとう。
児童・生徒表彰について、何かあるか。

菊地委員 立派だと思う。

伊東委員長 ありがとう。
報告事項2、小金井市立小・中学校連合作品展について願います。

浜田指導主事 平成19年度小金井市小・中学校連合作品展についてご報告する。
平成20年2月1日から2月4日にかけて、東小金井駅開設記念会館マロンホールにおいて開催した。児童・生徒の日ごろの学習成果を発表、鑑賞することを通して、創造活動の能力を伸ばすとともに、広く市民や保護者が学校教育の理解を深める機会とすることができた。出展作品数は、配付した資料のとおり、1,106点であった。出品されたどの作品も丁寧で、工夫が見られ、完成度が高いものであった。
以上である。

伊東委員長 行かれた方、ご感想など願います。

伊藤委員 雪が降った日だったが、たくさん人がいらして、入り口が滑るの

をあそこのマロンホールの方がよくふいてくださって、私は支えてまでいただいて入ったが、暖かく保たれていた。ただ、やっぱり狭くて、人が重なり合っていたかなということを感じた。

子どもたちが自分たちの学校の作品について、親たちやおじいちゃん、おばあちゃんに一生懸命に説明して、「これも、これも、これも、これも3組じゃねえか。どうしておれのクラスはないんだ」というようなことを言っていて、それは学校で上手に説明してあげなくてはいけないと思った。とてもすばらしい作品で、よかった。

附属ののぞき窓の作品が、見方の説明が少なかったから、皆さんわからなくて、私もそこで10人ぐらいに説明させていただいた。「ここからのぞかないとおもしろくないんだとか・・・」そういうのをもうちょっと早く、わかりやすくしておくの良いのでは、何だろう、何だろうという感じだったので、あるとよかったと思った。楽しかった。

伊東委員長

ありがとう。

よろしいか。

報告事項3、第13回東京国際スリーデーマーチについて願います。

林スポーツ
振興課長

第13回東京国際スリーデーマーチについて、現在までの進捗状況についてご報告する。

東京国際スリーデーマーチは、昨年を引き続いて、日本ウォーキング協会、朝日新聞、日刊スポーツ新聞、小金井市、会場の小金井公園を所管する東京都西部公園緑地事務所、東京都公園協会が主催者となり、5月3日・4日・5日の日程で開催することとなった。1月15日に、主催者の事務局会議を開催し、基本事項を確認した。2月中に参加者の募集を開始する予定となっている。小金井市の協力団体による協力内容については、1月25日に主催市実行委員会を開催し、昨年同様、駅での案内、中央会場での出店を行うことを確認している。

なお、詳細は今後、協議していくことになっている。

以上である。

伊東委員長

ありがとう。

ご質問はあるか。

報告事項4、第4回野川駅伝大会について願います。

林スポーツ
振興課長

第4回野川駅伝大会についてご報告する。資料をお配りしているので、ごらんいただきたいと思う。

昨年までは教育委員会の後援事業として行っていたが、平成19年度は東京都市長会の多摩・島しょ子ども体験塾助成金の予算がいただけたので、主催事業として、地域スポーツクラブNPO法人黄金井倶楽部に委託し、実施した。参加チーム数は昨年と比べて大幅に増えた。中学生女子の部も新設した。また、小金井消防署、小金井市トライアスロン連盟、小金井公園走友会の大人の3チームにオープン参加という形で参加していただき、大会を盛り上げていただいた。

当日は、教育委員長、教育長にご出席をいただき、どうもありがとう。

以上である。

伊東委員長

教育長からご感想を。

向井教育長

大変に子どもたちの参加の意欲というか、そういうのが表情から見てとれる。きょう頑張ろう。きっと、親しいクラブなどで一緒の子たちと一緒に参加できるというのがすごくよかったのかなというふうに思う。そういうグループはまだまだたくさんあるので、来年以降、またこれが新春の小金井の風物詩みたいになってくれるといいなというふうに思った。

伊東委員長

ありがとう。

報告事項5、神奈川県相模原市立星が丘公民館の視察研修について。

中嶋公民館長

本市公民館本館に神奈川県相模原市立星が丘公民館から視察研修があったので、ご報告をする。

2月6日水曜日午後1時30分、相模原市立星が丘公民館から、小泉博公民館長、公民館運営協議会委員、専門部委員、八木

正公民館長代理の16人がバスにて到着した。公民館本館学習室で視察研修をした。本市から、向井教育長のごあいさつ、次いで生涯学習部長、本館企画実行委員末包委員、公民館長、職員紹介、星が丘公民館小泉博公民館長からのごあいさつで始まった。

本市が視察研修先となった理由は、全国機関紙『社会教育』の12月号に、教育評論家武笠和夫氏の小金井市公民館が優良公民館表彰を受賞してのインタビュー記事で、特色ある公民館活動として独自の企画実行委員制度などが掲載されたことによる。

視察に来られた神奈川県相模原市は、中核都市として人口70万人以上、公民館32館があり、公民館活動への住民参加をより一層進めるため、公民館運営審議会を平成15年6月に廃止し、23館それぞれに定数25人以内の委員からなる公民館運営協議会を設置して、住民と館長が公民館の各種事業の企画・実施、その他運営に関して協議し、推進することとなっている。委員構成は公民館長、学校教育関係者、地域団体の関係者、利用団体代表者、学識経験者、公募による者などで、任期2カ年。本市の企画実行委員制度とも一部似ていることが視察の対象になった。

研修に当たっては、本館企画実行委員の末包委員から企画実行委員制度の説明をしていただき、質疑応答により、本市の社会教育活動について一層のご理解をしていただくよう努めた。

施設見学として、ITサポートセンターが本館資料室にて開催されていたので、ITボランティアスタッフによるパソコンなんでも相談を見学していただき、次いで、地下の福祉共同作業所の作業を見ていただき、青年学級みんなの会に学級生として通って、学習・交流を図っている生徒もいることなどを説明した。

最後に学習室に戻り、記念の集合写真を撮り、午後3時20分帰られた。

以上、ご報告する。

伊東委員長

ありがとう。

もう少し建物がきれいになるといい。

中嶋公民館長

建物に負けないように、職員も頑張っている。

伊東委員長 お疲れさまであった。
報告事項6、その他、あるか。

浜田指導主事 中学生の防災訓練ボランティア参加についてご報告する。
去る2月2日土曜日に、都立武蔵野公園野川第2調整池において、防災体験が行われた。小金井消防署が主催であるが、市内の中学生も約60名参加し、地域の消防ボランティア、自主防災会の方々と触れ合いながら、真剣に人命救助訓練を体験していた。具体的には、地震等の災害時に家具の下敷きになった人を助ける訓練や、長い棒とカーペットでタンカをつくり、人を運ぶ訓練など、実際に体験するプログラムが多く、中学生と地域の方々が力を合わせて取り組んでいた。
今後も、小金井消防署に対し協力をしてまいりたいと考える。
以上である。

伊東委員長 私もこの日、見学に行ったが、中学生が最初は遠回りで見えていたが、だんだんと自分たちで道具を使ったり、消防署の方にいろいろ教えてもらいながら作業をする、これはやはり今まで中学生は避難誘導される立場から、今度は人を助ける立場へと変わっていくんだなという、子どもたち自身の意識も大分違ってくるのではないかと思う。大変いい訓練だった。1回やっておけば、生涯いろいろな形で使えるのかなと思う。また、何かの形で多くの子どもたちがそこに参加できることを期待したいと思う。
その他あるか。

田中図書館長 2月16日土曜日に開催される東京農工大学小金井図書館との共同事業について、報告する。
図書館では、平成18年2月19日に東京農工大学小金井図書館と図書館の利用に係る相互協力を結んでいる。その一環として共同事業の実施があり、去年は子どもインターネット教室を8月4・5・6日と、東京農工大学総合情報メディアセンターで開催した。非常に好評であったので、今回は大人を対象にして、「使ってみようグーグル、グーグルアースで世界をめぐる」と題して、同じく東京農工大学で2月16日土曜日、午後1時から4時まで開催する。定員は50名であったが、市民の関

心が非常に高く、市報2月1日号で募集したが、既に早い段階で定員は埋まっている。

図書館からはグーグルに関する本を会場のほうにお持ちして、それで図書館のPRを図りたいというふうに思っている。

報告は以上である。

伊東委員長 2月16日は何時からか。

田中図書館長 1時から4時までである。

伊東委員長 その他あるか。
報告事項7、今後の日程についてお願いします。

淀川庶務 教育委員会の今後の日程についてご報告する。

課長補佐 3月19日水曜日、中学校の卒業式が行われる予定である。全委員のご出席をお願いしたいと思う。同じく3月25日火曜日、小学校の卒業式が行われる予定である。全委員のご出席をお願いします。3月27日木曜日午後1時30分から、平成20年第3回教育委員会を801会議室で開会予定である。4月1日火曜日午後1時から、教育委員会臨時会を第五会議室で開会予定である。4月2日水曜日午後1時30分から、臨時校長会・副校長会を801会議室で開会予定である。全委員のご出席をお願いします。

4月7日月曜日午前10時30分から、小学校の入学式が行われる予定である。全委員のご出席をお願いします。4月8日火曜日午前10時から、中学校の入学式が行われる予定である。全委員のご出席をお願いします。同日午後1時30分から、平成20年第4回教育委員会を801会議室で開会予定である。4月10日木曜日午前10時から、東京都教育施策連絡会が都庁大会議室で開催予定である。

全委員のご出席をお願いします。同日午後6時から、教育委員会歓送迎会を萌え木ホールで開催予定である。全委員のご出席をお願いします。4月24日木曜日午後2時から、東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会が東京自治会館で開催予定である。委員長のご出席をお願いします。5月13日

火曜日午後1時30分から、平成20年第5回教育委員会を801会議室で開会予定である。5月16日金曜日午後1時から、関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会が、山梨県民文化ホールで開催予定である。全委員のご出席をお願いする。5月21日水曜日午後2時から、東京都市町村教育委員会連合会総会が東京自治会館で開催予定である。全委員のご出席をお願いする。

教育委員会の今後の日程については、以上である。

伊東委員長

ありがとう。

報告事項はすべて終わった。

次に、日程第4に移る。議案第3号、平成20年4月1日付け執行の校長・副校長の人事異動に関する内申についてを議題といたしたいと思う。

委員長は、本案を小金井市教育委員会会議規則第10条第1項規定の事件に該当し、非公開の会議が相当と判断するが、委員の皆様、異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

伊東委員長

全員異議なしと認め、秘密会を開会する。

準備のため、休憩する。

休憩 午後2時49分

再開 午後2時54分

伊東委員長

定例会を再開する。

本日の審議はすべて終了した。

これをもって、平成20年第2回教育委員会定例会を閉会する。どうもお疲れであった。

閉会 午後2時55分